

第2回岩見沢市子ども・子育て会議議事録

日時 令和7年11月25日（火）午後6時00分

場所 いわみざわ健康ひろば

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

報告事項

(1) 令和7年度新規事業（ライフデザイン支援事業）について

協議事項

(1) 第2期岩見沢市子ども・子育てプランの事業評価（5年間の総括評価）について

4 その他

5 閉 会

事務局	1 開会(18:00)
会長	<p>2 挨拶</p> <p>皆さんこんばんは。最近一気に雪が降りましたね。このまま雪が降り積もってしまうと思い、いろいろ準備をしていましたが、あまり積もらず、少しほっとしています。</p> <p>事前に送付された会議資料は量が多かったため、見るだけでも大変だったと思います。この会議は、いろいろな立場の委員がいらっしゃいますので、細かいことでもご意見等を出していただいて、今後の事業実施に活かしていきたいと考えています。よろしくお願いします。</p>
会長	<p>3 議事</p> <p>それでは、議事に移ります。</p> <p>本日は、報告事項が1件、協議事項が1件あります。</p> <p>まず、報告事項(1)「令和7年度新規事業(ライフデザイン支援事業)について」、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、報告事項(1)「令和7年度新規事業(ライフデザイン支援事業)について」説明いたしますが、はじめに、皆様にご持参いただきました岩見沢市こども計画をご覧ください。</p> <p>今回ご報告いたしますライフデザイン支援事業は、岩見沢市こども計画の54ページ上段右側に記載する新規事業「赤ちゃんとのふれあい体験の実施」に該当するものです。また、30ページに記載のある、岩見沢市こども計画において重点的に取り組む4つのポイントの1つである「2 こども・子育てについて興味・関心をもってもらうこと」に該当する事業とな</p>

事務局	<p>っておりますので、その事業実施内容とこども・若者の意見や感想について報告させていただきます。</p> <p>それでは、資料 1-1 をご覧ください。</p> <p>資料上段に、今年度より事業を開始しましたライフデザイン支援事業の実施経緯をまとめております。</p> <p>こども家庭庁では、若い世代が描くライフデザインや出会いについて、若者自身の認識を把握し、希望の実現に対する課題を明らかにすることを目的に、若者と有識者からなる「若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるワーキンググループ」を令和 6 年 7 月から令和 7 年 4 月まで計 8 回開催し、日本で深刻化する少子化について議論が行われております。</p> <p>このワーキンググループにおいて、少子化の大きな要因として、1 つ目に未婚化・晩婚化の進行、2 つ目に経済的負担感の増大、3 つ目に子育てに対するネガティブなイメージの広がりが挙げられております。</p> <p>少子化の要因のうち、未婚化・晩婚化や経済的負担感については、国やさっぽろ連携中枢都市圏、岩見沢市において様々な取組を実施していることを踏まえ、今年度より子育てに対するネガティブなイメージに対する取組として、若い世代が職業生活だけでなく家庭生活も含めたライフプランを考えることや、こどもに興味を持つこと、妊娠・出産について自分事として考えるきっかけづくりを行うため、本事業を実施することといたしました。</p> <p>続いて、資料下段左側には、事業概要を記載しております。</p> <p>本事業は、進学や職業生活などの将来について考え始める年代である中学生を対象とし、中学生が赤ちゃんのいる家庭と交流することで、こども・子育てについて知り、職業生活だけでなく家庭生活を含めた将来の自分を思い描く機会を提供することを目的として実施いたします。</p> <p>実施方法は、実施を希望する中学校への出前講座とし、中学校の授業の 2 コマを使用し、1 コマ目に専門家による生徒向けの講話、2 コマ目に赤ちゃんとのふれあい体験という講座構成としております。</p> <p>次に資料下段右側をご覧ください。</p> <p>こちらには、今年度の実施について記載しております。</p> <p>今年度は、令和 7 年 10 月 23 日に岩見沢市立くりさわ学舎の 8 年生及び 9 年生の計 37 名を対象に実施いたしました。</p> <p>また、赤ちゃんとのふれあい体験の協力家庭については、であえーる岩見沢 3 階のこども・子育てひろば「えみふる」にあります常設型子育て親子ひろば「ひなたっ子」を利用する、生後 5 か月から 1 歳頃までの乳幼児のいるご家庭に参加を募り、当日は 15 組 32 人にご協力いただきました。</p> <p>講座は家庭科の授業としてくりさわ学舎の 3、4 時間目で行い、3 時間目はであえーる岩見沢のすぐ横にあります株式会社 G I F T ママコロ広場</p>
-----	---

事務局	<p>に常駐する助産師の方にご協力いただき、妊娠・出産・子育てのほか、大人になる前に知ってほしい性やからだに関する講話、こどもとふれあう際の注意点、保護者への質問について説明をしていただきました。4 時間目はふれあい体験として、赤ちゃんの月齢ごとにグループを分けた 3 つのブースを設けたほか、人形を使用した着替え・おむつ交換、妊婦体験ジャケットの着用などの体験や、成長段階人形の展示、中学生や妊婦が摂取すべき栄養について説明するブースの計 4 つのブースを設け、1 グループ約 10 人の中学生が、時間ごとに各ブースをすべて回り、月齢ごとの赤ちゃんの違いや、妊娠・出産・子育てに関する体験に直接触れ、理解を深めました。</p> <p>なお、ふれあい体験時には北海道大学 C O I - N E X T より、協力職員の派遣や体験物品等の貸与など、中学生にとって充実した体験内容となるよう連携を図りながら実施いたしました。</p> <p>説明だけではなかなかイメージが付きにくいと思いますので、ここで、参考資料（当日の様子について）をご覧ください。</p> <p>参考資料には、くりさわ学舎で実施した講座の様子として、写真 9 枚を掲載しております。</p> <p>資料左上には 3 時間目に行った講話の様子を、そのほかは 4 時間目に行ったふれあい体験の様子で、赤ちゃんとのふれあいのほか、各体験物品のブースの様子も掲載しております。</p> <p>次に、資料 1-1 の 2 ページをご覧ください。</p> <p>2 ページから 4 ページにかけて、講座前後に実施したアンケート結果を記載しております。2 ページでは、講座前後に同じ内容を質問し、気持ちの変化の有無を測る設問を記載しております。</p> <p>資料上段左側の問 1、資料中央左側の問 3、資料下段の問 5 といった、結婚やこども・子育てに関する設問については前向きな回答が多く、講座前後で大きな変化はみられませんでした。一方、問 2 や問 4 といった、赤ちゃんや子育てのイメージについて、講座前はネガティブなイメージを選択する生徒が多くみられましたが、講座後はポジティブなイメージを選択する割合が大きく増える結果となりました。</p> <p>続いて、3 ページをご覧ください。</p> <p>資料上段は、講座前のふれあい当日に向けての設問となっており、下段については、講座後の気持ちを答えてもらう設問となっております。</p> <p>まず、資料上段の問 6 は講座前の気持ちについての設問です。一部の生徒は不安と回答したものの、多くの生徒が楽しみと回答しました。また、問 7 は身近に赤ちゃんなどとふれあう機会があるか確認する設問を設けましたが、多くの生徒が身近に赤ちゃんがいないと答え、ふれあう機会が少ない状況となっています。</p> <p>次に資料下段講座後の気持ちについてです。</p>
-----	--

事務局	<p>問6「講座を受けて、自分や相手を大切にしようと思いましたか？」の設問については、回答した生徒全員が自分を大切にしようと思ったと答えました。また、問7、問8は講座の満足度と理解度についての設問です。それぞれの設問に対し、未回答を除いて生徒全員が「参加してよかった」「理解が深まった」との回答を得ました。</p> <p>続いて、4ページをご覧ください。</p> <p>こちらは、講座終了時に、中学生がその場で書いた感想や要望です。「赤ちゃんがかわいかった」、「抱っこがうまくいかなかった」といった感想や、「今後も続けてほしい」、「もっと長い時間ふれあいたかった」といった要望もいただいております。</p> <p>次に、5ページをご覧ください。</p> <p>こちらは、当日アンケートの結果を踏まえたまとめを記載しております。</p> <p>事務局としましては、今回の事業により3つの効果があったと考えます。</p> <p>1つ目に「赤ちゃん・子育てを知る」、2つ目に「イメージの変化」、3つ目に「ライフプランを考えるきっかけ」です。</p> <p>まず、資料上段の「赤ちゃん・子育てを知る」、「イメージの変化」の2つについてです。</p> <p>講座前のアンケートでは、参加した多くの生徒が、身近に赤ちゃんや就学前のこどもがいないと回答しているため、赤ちゃんに対するイメージはインターネットSNSなどの二次情報が中心と思われます。また、約8割の生徒が将来パートナーとの暮らしを望み、こどもがほしい、子育てをしてみたいと考えている一方で、子育てについては、ネガティブなイメージを持つ生徒が多い状況でした。</p> <p>講座後のアンケートでは、自らが体験して得た一次情報によってイメージがより具体的になり、赤ちゃんについては「素直」「おもしろい」、子育てについては「楽しいこと」「やりがいを感じる」といったポジティブなイメージの回答が増えていることから、講座前のイメージを大きく変える効果があったと考えております。</p> <p>次に、3つ目の「ライフプランを考えるきっかけ」についてです。</p> <p>アンケートに回答したすべての生徒が講座に参加してよかった、命の大切さや自分を大切にすることに対する理解が深まったと回答していること、また、「赤ちゃんとのふれあいを通して、将来自分のこどもがいる生活を想像することができた」「親の笑顔を見ると、大変なことだけではないことがわかった」など、赤ちゃんのいる家庭とのふれあいを通して、こども・子育てを自分事として捉える生徒もいたことから、将来について考え始める年代である中学生がライフプランを考えるきっかけとすることができたと考えております。</p>
-----	--

事務局	<p>ライフデザイン支援事業は今年度より開始した事業であり、現在の実施は1校のみですが、生徒の感想やアンケート結果から一定の効果があったと考えております。</p> <p>今後の事業実施にあたっては、実施校毎の生徒数と協力家庭数のバランスや協力家庭の確保、より効果的な講座構成や内容の検討などの課題については、参加者からの意見・感想を踏まえ、よりよいものにしていきたいと考えております。</p> <p>続きまして、資料1-2、1-3についてご説明いたします。</p> <p>こちらは、今回事業を実施したくりさわ学舎において、後日、講座の振り返り授業を実施した旨報告があり、計33人の生徒から改めて感想や意見をいただいたものをまとめた資料となります。資料1-2は、その内容を体験内容ごとに抜粋したものを、資料1-3はすべての内容を掲載したものとなっております。</p> <p>それでは、資料1-2をもとに一部ご紹介いたします。</p> <p>まず、1ページの資料左側、①ふれあい体験についてです。</p> <p>こちらは、赤ちゃんとうふれあってどう感じたか、赤ちゃんの保護者との会話で何を感じたかに分類して抜粋しております。「赤ちゃんの時点で性格の違いがあることを知った」や、「赤ちゃんの気持ちがわからず、接するのが難しかった」、「乳幼児の成長スピードが速いため、家族は一つ一つの瞬間が大切なのだと感じた。」など、実際に赤ちゃんとうふれあってみて気づいたことが多く記載されていました。保護者との会話では、「親は赤ちゃんのことがわかっていてすごい」といった感想のほか、「大変そう」と感じた生徒、「育児により自分の時間が無くなると思っていたが、親の顔を見るとそれだけではない」と気付いた生徒、「他の人より小さく生まれたのが自分だけではないとわかり、安心した」という生徒もいました。</p> <p>次に資料右側の②成長段階人形についてです。</p> <p>こちらは、妊娠の経過とともに胎内で成長する赤ちゃんの人形を実物と同じ大きさ、重さで再現したものです。今回の講座では、スタッフに妊娠中の方がいて、その説明を担当しました。「思ったよりも大きく、痛々しそう、辛そう」という感想や「人間の中にもう1人の命があることが不思議」という生命の神秘を感じる生徒もあり、人形だけでなく実際のおなかの大きさと比較できたことで、より具体的なイメージにつながったと考えられます。また、どんどん大きくなるにつれて、妊婦の身体的・精神的負担が増すことから、妊婦の力になりたいと思う生徒もいました。</p> <p>続いて、2ページの資料上段左側、③おむつ交換についてです。</p> <p>赤ちゃん人形を使用し、保健師が付き、おむつ交換の仕方をレクチャーしました。「人形だから比較的楽ではあったが、実際は暴れたりするからうまくやるのは難しいと思った」など、今回の体験では比較的上手に交換</p>
-----	---

事務局	<p>できたものの、実際に赤ちゃんに対して交換する際は大変だと感じたり、親の苦労を実感する生徒が多く、中には自分の時間が少なくなってしまうと感じる生徒もいました。</p> <p>次に資料下段左側の④妊婦体験ジャケットについてです。</p> <p>胎内に赤ちゃんがいること、妊娠に伴って脂肪が増えることで変化する重量や視覚の不自由さを再現して作られたジャケットで、中学生にはいすに座った状態で着用してもらいました。「思ったよりも重い、つらい」と感じた生徒が多かったです。また、「自分が実際にあの重さを10か月抱えるのは嫌だ」という生徒もいたり、優先席の意味がより深く理解できたという生徒、命の大切さを実感した生徒、実際に妊婦の立場になれた良い経験と感じた生徒など、様々な感想がある体験となりました。</p> <p>最後に資料右側の⑤栄養についてです。味のついた水、ジュースに含まれる砂糖の量や、ハンバーガーなどの身近な食べ物のカロリーに驚いた生徒が多く、「今からでも気を付けていきたい」といった感想がありました。また、「赤ちゃんのご飯の見た目はあまりよくないが、栄養が整っていることを知ったから、どんなバリエーションがあるのか知りたい」といった意見もありました。</p> <p>そのほか、資料1-3にはたくさんの感想や意見をいただいておりますので、ご覧いただければと思います。</p> <p>資料1-1から資料1-3、参考資料についての説明は以上です。</p>
会長	ただ今の説明について、何かご意見、ご質問等ありますか。
A委員	協力家庭が15組集まったとのことで、思っていたよりもたくさんの方が協力してくれたと感じています。自分の赤ちゃんが他人に触れられることに抵抗感を持つ人も少なくないとは思いますが、協力した方たちはどのような気持ちで参加したのですか。
事務局	<p>協力家庭は、ひなたっ子を利用する生後5か月から1歳頃までの乳幼児のいるご家庭を対象とし、講座実施日の約1か月半前である9月12日から9月25日までの期間、対象となるご家庭に直接お声掛けする形で協力を募り、「ぜひ協力したい」と申し出たご家庭にご協力いただきました。</p> <p>ひなたっ子を利用する方々は、赤ちゃん同士や親同士の交流など、様々な人と接する機会を求めている方が多くいらっしやいまして、今回お声掛けした際には、中学生のためにもなるならぜひ協力したいと前向きな気持ちで参加してくれた印象です。</p>
A委員	参加してくれた保護者、赤ちゃんにとっても、いい影響があればいいですね。
B委員	令和7年度はくりさわ学舎1校での実施とのことですが、今後、別の中学校での実施も検討しているのでしょうか。
事務局	令和8年度の実施については、現在予算要求の段階であるため、確実な

事務局	<p>ことは言えませんが、複数の学校での実施を検討しています。</p> <p>本事業は各学校に協力をいただき、家庭科などの授業として実施することとなります。各学校は、年間指導計画を立て、教科ごとのスケジュール等を決定していることから、市が実施校を指定することは難しいですが、先日、各学校に対して令和8年度の実施希望調査を行ったところ、3校から実施に前向きな回答をいただきましたので、できるだけ多くの希望校で実施したいと考えています。</p>
B委員	<p>中学生にとって、とても良い経験になると思うので、予算要求頑張ってください。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p>
会長	<p>そのほか、何かご意見、ご質問等がありますか。</p>
C委員	<p>説明を聞いて、すごく地道な取組だと感じました。中学生が将来、お父さん、お母さんになることにつながっていく大事な取組だと思います。</p> <p>中学生に限らず、小学生、高校生など、いろいろなカテゴリーにも広げて実施しても良いと思います。</p>
A委員	<p>資料1-1の事業概要を見ると、中学生を対象にしているとのことですが、これについては理由があるのですか。</p>
事務局	<p>家庭を持つことや子育てをすること、子育てをする人を助けることなど、将来自分がこどもと関わることを思い描いてほしいということがこの事業のコンセプトです。</p> <p>そのコンセプトをもとに、事務局において対象範囲を検討し、今後の進路を自分なりに考え始める時期である中学生を対象に実施することとしました。</p>
A委員	<p>中学生からも、前向きな意見が多かったので、今後もぜひこの取組を継続してほしいと思います。</p>
会長	<p>ほかに何かご意見、ご質問等がありますか。</p> <p>ないようですので、次に進みます。</p> <p>次に、協議事項(1)「第2期岩見沢市子ども・子育てプランの事業評価(5年間の総括評価)」について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、協議事項(1)「第2期岩見沢市子ども・子育てプランの事業評価(5年間の総括評価)」について、資料2-1と資料2-2にてご説明いたします。</p> <p>なお、前回の第1回会議の協議事項では、資料2-2と同様の書式を使い、令和6年度分の事業評価についてご説明いたしましたが、今回は、令和2年度から6年度の5年間の総括評価となっております。</p> <p>はじめに、資料2-1をご覧ください。</p> <p>まず、資料左側の5年間の事業実施状況についてです。</p> <p>資料左側上段には、第2期岩見沢市子ども・子育てプラン（以下、第2期プラン）第4章の子ども・子育て支援事業計画に位置づけた各事業の総</p>

事務局	<p>括評価を記載しております。子ども・子育て支援事業計画の対象事業は、国が定める基準に基づき設定した量の見込みと確保方策のほか、こども・子育てに関する事業を広く位置づけており、資料 2-2 には全 104 事業を記載しております。</p> <p>評価基準につきましては、計画どおりに成果が得られたものを A 評価とし、一部成果を得られなかったものを B 評価、計画どおりに事業が遂行できなかったものを C 評価、事業に着手できなかったものを D 評価としております。</p> <p>全体の事業数で見えていきますと、104 事業のうち 83 事業(79.8%)が A 評価となっており、B 評価の 19 事業(18.3%)と合わせますと、102 事業(98.1%)の事業において一定の成果が得られたという結果になっております。</p> <p>続いて、資料左側の中段からは、計画期間内の新規事業や実施内容を見直した事業、実施を終了した事業を記載しております。</p> <p>まず、計画期間内の新規事業は、保育士等の人材確保策、おはようキッズ事業などの 4 事業で、3 点目の S・E スタディ参加のための移動支援を除き、計画に定めたとおりに実施できており、A 評価となっております。</p> <p>次に、実施内容の見直しとして、ファミリー・サポート・センター事業における病児・病後児保育の開始、こどもの医療費の助成対象範囲を入院・通院ともに高校生年代まで拡大するといった取組を行い、それぞれの総括評価も A 評価としております。</p> <p>最後に、実施を終了した事業についてです。該当する 6 事業のうち、幼児健診事後指導教室とこどもサポート「うずら」は、少子化による対象者の減少や、コロナ禍による事業中止などの状況を踏まえ、集団の場の提供から個別の相談対応に実施手法を変更し、現在も支援を必要とする方への支援を継続しております。また、先ほど新規事業で触れました S・E スタディ参加のための移動支援についても、コロナ禍の影響により利用者の大幅な減少が続いたことを踏まえ、移動を要せず利用できるオンデマンド配信による個別の学び塾、通称 OK スタディへ実施形態等を変更したことから、移動を支援する事業は終了となっております。</p> <p>以上のように、終了した事業については、違うアプローチでの対応や、一定の役目を終えたものが多く、計画全体の遂行そのものに大きな影響はなかったと考えております。</p> <p>次に、個別の事業の総括評価について、A から D の評価ごとに例を挙げてご説明いたします。</p> <p>資料 2-2 をご覧ください。</p> <p>資料 2-2 は 34 ページにわたり、全 104 事業の総括評価を記載した資料となります。</p> <p>まず、A 評価の計画どおりに成果を上げた事業の例として、資料 4 ページの No. 1-9「子育て親子ひろば」が挙げられます。</p> <p>子育て親子ひろばには、市内児童館等を活用して開催する「地域親子ひろば」と、であえーる岩見沢 3 階の常設型子育て親子ひろば「ひなたっ子」があります。地域親子ひろばは、主任児童委員や子育てボランティア等の地域スタッフが協力しながら開催し、コロナ禍においても創意工夫をしな</p>
-----	--

事務局	<p>がら、子育て親子の身近な地域での交流の場を提供しました。</p> <p>また、常設型子育て親子ひろば「ひなたっ子」は、コロナ禍で利用者数の減少がみられたものの、令和6年度には回復しており、就学前の親子が身近な地域で遊びながら交流できる環境と、こども・子育てひろば「えみふる」の構成部門として相談者と支援者をつなぐ連携体制の充実に努めることができました。</p> <p>次に、B評価の一部成果が得られなかった事業の例として、資料12ページのNo.2-4「母親学級及びペア学級事業」が挙げられます。</p> <p>安全安心な出産を迎え、産後も適切な育児ができること、また核家族化が進む中、夫婦で協力しながら育児をしていく意識を高め、健やかな家庭が築かれるよう、育児に必要な知識や技術の提供を行う事業で、現在は、プレママ教室、パパママ教室という名称に変更し、実施しております。</p> <p>令和元年度の受講率は、プレママ教室で15.6%、パパママ教室で20.9%でしたが、令和2年度以降はコロナ禍の影響によるプログラムの一部中止や対象妊婦の受講控えがみられ、大幅に減少しました。その後、受講率は少しずつ回復傾向にあり、令和6年度にはコロナ禍で中止していたプログラムの再開や、実施内容に助産師によるお産に関する講話を追加するなど、内容の見直しを行いながら実施してまいりましたが、コロナ禍前の受講率までは至らない状況です。</p> <p>なお、今年度には実施手法に関するアンケートを実施しており、その内容を踏まえ、令和8年度から実施回数や内容を大幅にリニューアルすることを予定しております。</p> <p>続いて、C評価の計画どおりに遂行できなかった事業は、資料7ページのNo.1-16「保育所地域活動事業」です。保育所と地域の人々との交流や高齢者施設への訪問など、市内認可保育所等の世代間交流を促進する取組ですが、令和2年度から令和4年度はコロナ禍のため全園で実施できていませんでした。令和5年度は9か所、令和6年度は12か所の保育所等が交流を再開していますが、交流時期に高齢者施設において感染が広がり再開に至らなかったり、現在も交流再開に慎重な保育所等もあるなど、想定よりも実施施設数が少ない結果となりました。</p> <p>最後に、D評価の着手できなかった事業は、資料31ページのNo.5-4「児童虐待防止の学習会によるネットワークづくり」です。</p> <p>児童虐待防止に向け、広く有識者等で構成する懇話会等の設置や懇談の機会を検討しておりましたが、コロナ禍のため実施ができずにおりました。</p> <p>前回の第1回会議でもご説明しましたが、こちらは令和8年度からの実施に向けて実施方法等を検討しているところですので、実施にあたっては、発案いただいたH委員をはじめ、委員の皆様にご協力いただくこともあろうかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>計画全体としては、少子化やコロナ禍の状況に合わせた事業実施に努めており、計画に基づいたこども・子育て支援の取組ができたと考えておりますが、結果としてこの5年間のこども・子育ての状況がどのように変化したのか、資料2-1に戻って説明いたします。</p> <p>資料2-1の右側「こども・子育ての状況」をご覧ください。</p>
-----	--

事務局	<p>まず、資料上段中央の「あそびの広場」についてです。</p> <p>全体の利用者数としては、令和元年度までは 55,000 人を超えていましたが、令和 2 年度からは新型コロナウイルス感染症による影響が大きく、一時は 20,000 人を下回る状況となりました。その後は感染対策に努めながら運営し、令和 5 年度にはコロナ禍以前の水準まで利用者数が回復し、令和 6 年度は平成 30 年度に次いで過去 2 番目の多さとなりました。また、令和 7 年度も 4 月から 9 月の半年間で既に 30,000 人を超えており、令和 6 年度の利用者数を上回る見込みとなっております。</p> <p>令和 6 年度利用者の市内外の内訳は、市内 19,330 人、市外 36,258 人と、市外利用者が約 65%を占める状況となっておりますが、市内外ともにコロナ禍前の水準に回復してきています。</p> <p>今後の課題は市内利用者の確保です。あそびの広場は、であえーる岩見沢 3 階のこども・子育て広場「えみふる」の核となる施設であり、親子が集まる場所で支援を実施する「えみふる」のソーシャルワークシステムの入口を担う施設です。今後、出生数の減少により利用者数も減少が見込まれるため、イベントの実施や各種スポーツ教室の開催など、魅力ある取組の充実に努め、市内利用者のリピート率向上を図りたいと考えております。</p> <p>次に、産前産後ヘルパーの利用状況についてです。</p> <p>先ほどご説明しました「あそびの広場」と同様、令和 2 年度から利用者が大幅に減少しましたが、「あそびの広場」と異なるのは、令和 5 年度時点においても利用者が減少したままという点です。産前産後ヘルパーの利用は「あそびの広場」と異なり、自宅に来て支援してもらうという内容であるほか、対象者は感染症に対して特に意識の高い時期である出産前後期の保護者のため、コロナ禍を経て、感染症に対する意識の変化や他者との接触機会の減少などにより、制度利用に対する抵抗感が増していたと考えられますが、令和 6 年度の利用回数は 296 件と増加し、令和 7 年度は 10 月時点で 213 件と大幅に利用が増え、年間 350 件を超える見込みとなっております。</p> <p>事業の実施にあたっては、保護者ニーズの把握や支援方法のあり方について検討するため、昨年 10 月より 1 歳 6 か月児健診の際にアンケートを実施しておりますので、事業の課題等が整理できましたら、改めてご報告させていただきます。</p> <p>続いて、ファミリー・サポート・センター事業と留守家庭児童の状況です。</p> <p>ファミリー・サポート・センター事業は、依頼会員や提供会員の自宅、であえーる岩見沢 4 階にありますファミリー・サポート・センターの事務所内での預かり、保育施設への送迎などを行う事業です。産前産後ヘルパーと同様、自宅に来て支援してもらうという内容も含まれておりますが、令和 2 年度以降も援助活動回数に大幅な減少はみられませんでした。</p> <p>コロナ禍においても援助活動回数が大きく減少しなかった要因としては、産前産後ヘルパーと比較して、対象年齢の幅が広いことや、有料であっても長い時間の利用が可能であること、利用する保育施設や習い事への送迎、冠婚葬祭や兄弟の学校行事の際の預かりなど、利用を必要とする家</p>
-----	---

事務局	<p>庭が一定数おり、その利用は自宅以外でも可能な仕組みとなっていることが挙げられます。一方、令和3年度以降は援助活動回数が徐々に減少しているものの、依頼会員登録者数は増加しています。これは、令和4年度から病児・病後児の預かりを開始したこともあり、「万が一に備え、念のため登録する方」が増えたことが要因と考えております。</p> <p>次に、留守家庭児童についてもコロナ禍において大きな影響は受けていないという点は、ファミリー・サポート・センター事業と同じですが、登録者数、留守家庭児童数、一般利用数いずれも概ね横ばいの傾向が続いております。</p> <p>こちら、共働き世帯の増加などにより利用を必要とする家庭が一定数いるということが大きな要因と考えております。</p> <p>これらの事業については、引き続き、必要とする家庭が適切に利用できるよう取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>次に出生数です。</p> <p>全国的な少子化が続く中、岩見沢市の出生数も減少が続いており、第1期プラン策定時の平成27年は491人でしたが、令和6年には275人となっております。平成27年に対し、令和6年では44%の減少です。</p> <p>また、隣のグラフでは、第2期計画策定時における就学前児童数の推計値と実績値を抜粋して記載していますが、推計を上回るペースで減少し、令和5年4月では約8%、令和6年4月では約10%も推計値を下回っています。</p> <p>資料下段には人口ピラミッドを記載していますが、こどもを産み育てる年代である20歳から39歳までの男女の人口が急激に減り、平成27年度に対して28.5%減少しています。先ほどの報告事項において未婚化・晩婚化の進行にも触れましたが、当市においてはこどもを産み育てる年代の人口が減った要因も大きいと考えております。</p> <p>今後、岩見沢市こども計画に基づき、重点的に取り組む4つのポイントを軸にこども・子育て支援の充実を図り、岩見沢市こども計画の30ページに記載した目指すまちの姿である「こども・若者の育ちや子育てをまち全体で支え、すべての市民がこども・若者の育ちと学び、将来に関心・つながりを持つまち」に向けた取組を進めてまいりたいと考えておりますので、委員の皆様には、ただいまご説明しました個別の事業評価やこども・子育ての状況を踏まえ、率直な意見や感想をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>資料2-1、資料2-2についての説明は以上です。</p>
会長	ただ今の説明について、何かご意見、ご質問等ありますか。
D委員	<p>産前産後ヘルパー事業についてですが、私はこの事業がスタートした頃に2度利用させていただきました。当時は事業所数が多く、家から近い事業所を選ぶことができましたが、今年利用した知人からの話では、事業所数が少なく、利用したいときに利用できないことがあると聞きました。</p> <p>そこで、現在利用できる事業所数について教えていただきたいです。また、この事業を利用したいという需要が、供給体制を上回った場合、この事業は衰退してしまうのではないかと考えるのですが、それについてどう</p>

D委員	考えていますか。
事務局	<p>令和7年度現在、利用できる事業所数については4か所となっております。第2期プラン期間中の事業所数は、令和2年度と令和3年度は7か所、令和4年度は5か所、令和5年度は3か所、令和6年度は4か所となっております。D委員がおっしゃるとおり、以前と比較すると事業所数が減少してきています。なお、事業実施にあたっては、事業所に対して毎年度協力依頼を行い、ご協力いただける事業所と委託契約を締結していることから、事業所数が同じ年度であっても事業所の構成は異なります。</p> <p>需要と供給のバランスについては、事業の実態を把握するため、昨年10月から1歳6か月児健診の際にアンケートを実施しております。その中には、利用したいときに利用できないという声もありました。各事業所は、介護事業所として事業を行いながら、人員をやりくりして本事業に協力いただいているという現状があります。そのため、前日や当日に利用したいという利用者からの申込みがあっても、事業所側の体制が整わず、依頼を受けることができないといった状況であることは把握しております。事業所数が増えれば、そういった声にも対応することが可能になってくると思います。</p> <p>利用できる事業所を増やすためには、本事業の周知、関係機関との調整、利用しやすい仕組みづくりが課題となりますので、今後に向けて検討していきたいと考えています。</p>
会長	そのほか、何かご意見、ご質問等がありますか。
E委員	<p>No. 3-8「総合的な学習の時間等における外部人材の活用」について、小学生の息子から、実際の内容を聞いているのですが、いろいろな企業の方がお話をしてくれたり、実際に企業を見学させてもらったりという内容で、とても喜んで授業を受けています。</p> <p>その中で、1点残念だったことがありました。ねぶた祭りの授業があり、踊りや祭りの成り立ちなどを教えてもらったほか、行燈を作成し、祭りの会場で展示するというので、みんな楽しみにしていました。ですが、当日会場に行くと他の学校の行燈はありましたが、息子が通う学校の行燈は展示されておらず、とてもがっかりしていました。その後、学校の先生に聞くと、準備期間が短く、祭り当日に間に合わず、展示できなかったということでした。</p> <p>せっかく岩見沢市を好きになるきっかけとなる機会でもありましたし、祖父、祖母など家族みんなで祭りに行った人もいたと思いますので、とても残念でした。</p> <p>本事業を進めるにあたっては、外部の方と学校側とのコミュニケーションを密にしていかないと、今後もそのようなことが発生してしまう可能性があるのでは、気をつけてほしいと思います。</p>

事務局	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>担当課の指導室にも申し伝え、今後の事業の参考としていきたいと思いをします。</p>
F 委員	<p>No. 1-5「病児保育事業」についてです。私は岩見沢市外に住んでおり、現在住んでいる自治体の病児保育を利用しています。利用予約などの手続きはオンラインで行うことができ、とてもスムーズに利用できているのですが、岩見沢市でこの事業を利用する際、オンラインなどを使用するといった書類に記入する以外の手続きができる仕組みはあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>岩見沢市では、未就学児を対象とした病児保育施設 1 か所を市立総合病院に隣接した場所で運営しています。また、小学校 6 年生までを対象とし、ファミリー・サポート・センター事業において病児・病後児の預かりも行っていますが、現状、各事業の利用手続きをオンラインで行える仕組みはありません。</p> <p>利用のしやすさという点は課題だと考えております。</p>
A 委員	<p>利用しやすい方法をぜひ検討いただきたいと思います。</p>
D 委員	<p>私も今、病児保育を利用しています。</p> <p>利用方法ですが、こどもが熱を出したら、まず病児保育施設に電話をして空きがあるかを確認し、空きがあれば仮予約します。その後、小児科で診察を受けてから病名をお伝えするため、もう一度病児保育施設に電話をします。仮予約時に空きがない場合は、キャンセル待ちの予約をすることもできますが、その場合は翌日に空きが出ていないかを改めて確認するため、もう一度自分から電話をしています。</p> <p>何回も電話することは、施設の保育士と直接お話ができるため、こどもの様子を伝えやすいという利点がありますし、私自身はこの手続きに慣れているため苦にしていますが、ほとんどの保護者はこの手続きに手間がかかると思います。</p> <p>利用者としては、記入する書類の量が減ることに加え、電話に比べて場所を選ばず、隙間時間でできるオンラインを活用することはとてもいいことだと考えます。</p> <p>ですが、病児を預けることができる本事業があることにはとても感謝しています。</p>
F 委員	<p>私は、子育て中に 3 都市に住んでいた経験があるのですが、北見市はコロナ禍前からインターネット予約ができていました。札幌市は、登録に係る手続きが簡素化され、面倒だと感じませんでしたし、LINE で利用予約ができたり、病院の先生からもらう利用連絡票も撮影して、そのままアップロードする機能があるなど、保護者にとっても簡単に利用することができます。</p> <p>保護者は子育てしながら書類を記入するのはとても手間がかかってし</p>

F 委員	<p>まうので、岩見沢市もできるだけ簡素にしてほしいと思います。</p> <p>続けて意見ですが、No. 3-4「子どもの心の相談医」について、うまく実績件数が拾えなかったとは思いますが、他の事業は年度ごとに件数を出したうえで評価を行っています。評価をするということであれば、やはり件数がないと何をもって評価したのかがわかりにくいと思いました。</p>
会長	<p>何をもって評価をしたのかという点について、事務局は何か情報ありますか。</p>
事務局	<p>この事業が何をもって評価したかというのは、今具体的に申し上げることは難しいですが、評価の方法については、これまでの会議でも課題としてご意見、ご指摘をいただいております。来年度からは、令和 7 年度から令和 11 年度を期間とする岩見沢市こども計画の事業評価を行うこととなります。各事業について、量で評価するのか、質で評価するのかをわかりやすくなるようにしていきたいと思います。</p> <p>※会議終了後、資料 2-2、No. 3-4「子どもの心の相談医」の実績件数について担当課へ確認。以下のとおり延件数は減少しているものの、こども一人一人の相談に寄り添う支援に努めることができたとの回答。</p> <p>【年度別延件数】</p> <p>R2：380 件、R3：500 件、R4：385 件、R5：229 件、R6：164 件</p>
会長	<p>そのほか、何かご意見、ご質問等がありますか。</p>
F 委員	<p>No. 1-28「保育士等人材バンク」について、事業内容としては、求人情報をメールでお知らせするものですが、登録者数が少ないという状況から、メールでお知らせするだけでなく、違う方法でのアプローチも必要と思いました。</p>
G 委員	<p>同じ意見です。</p> <p>どの園も同じ状況かどうかはわかりませんが、こどもを守る立場である保育士や幼稚園教諭の人材が不足していると、こどもや子育てをしている人たちを助けることができないので、この事業は頼りにしたいと思っています。</p> <p>最近では、保育士や幼稚園教諭になりたい人が少なくなり、養成校の定員割れも起きていると聞いています。報告事項で説明があったように中学生などの若い世代に対して、子育ては大切なことだよと伝えていくことはとても重要なことだと思いますし、保育士などがいきいきと働くことで、保護者は安心してこどもを預けることができると思います。私たちだけでは、人材を探しきれないことがあるので、様々な方法でアプローチをいただいて、結果が出るような方向に進めていただけると嬉しいです。</p> <p>もし、何かお手伝いできることがありましたら言っていただければと思います。よろしくお願いします。</p>

F 委員	<p>保育士等の養成校では、いくつか募集をやめるという話も聞こえています。私が勤務している学校でも保育士の養成を行っておりまして、学生が保育所等の現場にアルバイトに行くことがあります。実際に現場に行って体験してみないと分からないような学びを提供してくれる保育所等の存在は、人材育成の観点からとてもありがたいです。</p> <p>確認ですが、市内の保育所等で働く人に対し、市から助成金を支給する制度はあるのですか。</p>
事務局	<p>No. 1-25「保育士等人材確保事業」の制度があります。第 2 期プランでは、新規に卒業した方の採用に取り組む保育所等を支援するという条件でしたが、岩見沢市こども計画策定の際に見直しを行い、新卒に限らず、事情により一旦退職した方も対象とし、岩見沢市内の保育所等で働いてくれる人材の確保をより広くできるよう変更しました。</p> <p>市としても、保育所等からの声をお聞きしながら、どのような形で人材確保を行うのが良いか、引き続き検討していきたいと考えていますので、ご協力をお願いします。</p>
F 委員	人材の確保の対象を広げたことはとても良いことだと思います。
事務局	ありがとうございます。
A 委員	<p>資料 2-1 の第 2 期プラン期間内に事業実施を終了した理由について、実施方法の変更であったり、一定の役目を終えたものが多いとのことでしたが、終了した事業すべてがそのような理由なののでしょうか。それとも、後ろ向きの理由があって終了したものもあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>幼児健診事後指導教室、こどもサポート「うずら」については、教室という集団での利用が減ってきているという現状から、個別の相談に実施方法を変更しました。また、いわみざわ花と緑の少年団事業については、こどもを対象とした事業でしたが、年齢を問わず、幅広い年代に参加していただくという方針のもと、こどもに特化した取組は終了しています。</p> <p>このように、参加人数は減ってきていても、事業自体の取組は必要で続けていくという事業がほとんどでしたが、中学校選択制度については、家庭からの満足度は高かったものの、教育の質や、中学校の人数の偏りが見られるなど、全体的なバランスを考えて事業を終了するという判断になりましたので、強いて言えば後ろ向きな理由となっていると考えています。</p>
A 委員	B～D の評価がついている事業は、リニューアルを検討していると説明いただきましたが、説明があったもの以外も必要に応じて、リニューアルを検討していく方針であるということでしょうか。
事務局	<p>はい。</p> <p>D 評価である No. 5-4「児童虐待防止の学習会によるネットワークづくり」については、令和 8 年度以降の実施に向けて検討を進めております。また、そのほかの事業についても、よりよいものとなるよう見直しを行い、</p>

事務局	岩見沢市こども計画の評価に活かしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
A委員	承知しました。
会長	<p>ほかに何かご意見、ご質問等がありますか。</p> <p>ないようですので、本協議事項について承認することとしてよろしいでしょうか。それでは、承認することといたします。</p> <p>以上で予定されている事項は全て終了となります。皆さんから情報共有する事項は何かありますか。</p> <p>なければ、本日の議事は以上で終わりたいと思います。議事を事務局にお返ししたいと思います。ご協力ありがとうございます。</p>
事務局	<p>4 その他</p> <p>第3回会議の調整</p>
事務局	5 閉会(19:20)